

かや

可也

可也小学校校歌

一、みよ可也山は 可也の子の
高い希望を そのままに
つくしの野辺に そびえたつ
さあこの土を ふみしめて
元氣はつらつ 進むのだ
日本の未来を ひらきつつ

二、きけ玄海は 可也の子の
意氣をたたえて どうとうと
にぎの浜辺に こだまする
さあがっちりと 肩くんで
心ひろびろ 生きるのだ
世界の平和を きずきつつ

夏

夏風物詩ハマボウと可也山。志摩地区と前原地区の間を流れる泉川には、国内でも有数のハマボウの群生地があります。7月初旬には黄色い花が岸边に咲き誇り、多くの観光客が初夏の風景を楽しみます。毎年、この時期に、ハマボウまつりが開催されています。

DATA

●人口9,140人

●男性4,395人、女性4,745人

かふり

加布里

加布里小学校校歌

一、ぼくら わたしら 日本の子
日ごと 加布里の学校に
強く正しく 育つのも
国のめぐみや 父母の恩
国のめぐみや 父母の恩

二、いつも やさしい 先生の
あつい 教えに かこわれて
時代を背負う 小国民
がんばりましょうよ
進みましょうよ
がんばりましょうよ
進みましょうよ

加布里湾に沈む夕日は、糸島を代表する美しい風景の一つです。西に開けた海に空の紅色が映え、景色全体が赤に染まります。湾内に流れ込む泉川に架かる弁天橋には、夕日を写真に収めようとカメラ片手の観光客が訪れます。

DATA

●人口7,705人

●男性3,675人、女性4,030人



加布里湾に沈む夕日は、糸島を代表する美しい風景の一つです。西に開けた海に空の紅色が映え、景色全体が赤に染まります。湾内に流れ込む泉川に架かる弁天橋には、夕日を写真に収めようとカメラ片手の観光客が訪れます。

糸

島富士とも呼ばれる秀麗な可也山

糸島富士、筑紫富士とも呼ばれる可也山は、富士山に似た秀麗な山です。糸島半島のどの地域からでも見るができます。ここは古くからの集落と新興住宅地が混在する校区です。

可也(カヤ)と伽耶(カヤ)

志摩地域には、珍しい地名がたくさんあります。その代表的な地名に可也や芥屋があり、初めての人は「かなり」や「あくたや」など、その読みに苦労します。

可也という地名は古く万葉集の歌に出てきます。「草枕旅を苦しみ恋ひをれば可也の山辺にさ男鹿鳴くも」。これは今から1200年前の奈良時代、遣新羅使の一行が引津湾に停泊した時の作といわれています。

ところが「カヤ」の地名は朝鮮半島の南部にもあり「伽耶」と書きます。古くから朝鮮半島との交流があった糸島半島の地名は、たくさんさんの共通点があり、その起源は朝鮮半島にあると思われます。

志摩の中心地

昔からの風習が残るおおらかな気風と、新しく住居を構えた人たちの行動力を備えた活気のある校区です。

歴史資料館や健康福祉センター、中央公園などがあり、桜の季節は、中央公園から志摩庁舎にかけての桜並木が見え。

ハイキングが好きな人には可也山と火山がお薦めです。可也山は師吉からのルートが初心者に最適です。頂上からの360度のパノラマは圧巻で、糸島全土を見渡すことができます。

火山頂上付近には、雷山千如寺の末寺、瑠璃光寺があります。春の桜、秋の紅葉は見事です。山頂付近から芥屋大門方面への眺望は素晴らしく、カメラマンにもお薦めのポイントです。

可也山大石と日光東照宮

徳川家康を祭った栃木県の日光東照宮の大鳥居は、可也山から切り出された巨石によって造られました。

この鳥居は1618年、福岡藩主黒田長政によって日光に奉納。高さ約9m、幅約13mで、江戸時代に造られた石鳥居の中では日本最大です。

火山から見る芥屋大門方面へ続く幣(にぎ)の浜の雄大な景色は圧巻

山

も川も海もある、恵まれた加布里

糸島の山や里の豊富な栄養を含んだ雷山川の水が、加布里湾に注ぎ、ハマグリをはじめとする豊かな食を生み、古代から中世にかけての歴史・文化が加布里ではぐくまれてきました。

自然の恵みあふれる校区

加布里校区は、山も川も海もある、自然に恵まれた、誰もが住みたくなる地域。

海(船越湾)が見える加布里公園があり、加布里湾から見る夕日は、糸島富士(可也山)とのコントラストが素晴らしく、その情景は、感動を与えてくれます。

加布里湾に流れる、干拓によってできた泉川には「はまぼう夢の里」があり、花が咲く7月には、ハマボウの群生地を見に、多くの人たちが訪れます。

また、糸島平野の豊富な栄養を含んだ雷山川の水は、カキや天然ハマグリなどの魚介類を育て、シーズンになると、漁港にカキ小屋が並び、干物も有名です。ノリの養殖も行われ、春先にはオキユウト草を求め、海岸を歩く人の姿もあります。

気候は温暖で、農業も盛んです。古くから干拓が進められ、米麦はもちろん、イチゴやキャベツ、ランなど、多くの種類の農産物があります。

中世の文化財

連帯と協調性が強く、助け合いの精神が旺盛な土地柄です。「地域見守り隊加布里」があり、青パト隊のパトロールも行われています。

現在は休止になっていますが、加布里天満宮の加布里山笠は有名です。かつては山笠が町内を練り歩き、対岸からは「寺山囃子」も加わり、大にぎわいでした。

校区の歴史は古く、弥生時代の遺跡はもちろん、中世の文化財も多く、千早新田の仙涯歌碑や長栄寺の「閻魔様」の掛け軸、東の疫神社の「輪越様」や原田庄13か村の総社「八幡宮」などがあります。

校区の遺跡 ● 釜塚古墳

釜塚古墳は、JR加布里駅東にある、九州屈指の大型円墳。周溝など含むと直径約90m。出土した木製の埴輪「石見型木製品」は国内最古。伊都国歴史博物館に展示されています。

加布里小学校6年生が、卒業記念に作った木製品のレプリカを設置。古代ロマンが満喫できます。

伝統の加布里山笠は、平成16年を最後に休止している



伝統の加布里山笠は、平成16年を最後に休止している